

(1) 読み聞かせ

たのしい読み聞かせ

新宿区立落合第二小学校 編



本校では、各週に1時間固定の読み聞かせの授業の他、様々な形で子どもたちに読み聞かせを行っています。

毎年5月には、保護者ボランティアを募集し、読み聞かせと図書室の装飾をお願いしています。季節ごとの図書室の装飾は、図書室を明るく親しみやすい空間とし、子どもたちの読書環境を充実したものとしています。

保護者ボランティアによる読み聞かせは、「おはなし会」とよばれ、月に2回程度、中休みを利用して行われています。低学年を中心に、多いときには80名ほどの子どもたちが集まり、熱心にお話に聞き入っています。おはなし会が終わると、保護者が作成した葉が一人1枚もらえるので、それを集めるのを楽しみにしている児童もいるほどです。図書室にない本や大型絵本、紙芝居など、様々な読み聞かせを行っていただけるので、毎回飽きることなく、楽しくおはなしを聞くことができます。



保護者ボランティアの方には11月の読書月間にも、1・2年生と特別支援学級の各教室で読み聞かせをしていただいています。朝読書の時間を利用し、じっくりと読み聞かせを行っていただいています。



本校では6月と11月の年に2回読書月間を設けており、この期間には、担任以外の教職員や図書委員も読み聞かせをしています。教職員による読み聞かせは、校長や副校長、事務主事や栄養教諭などが全学級に赴いて読み聞かせをします。絵本や紙芝居、高学年には短編集など、

担当学年に合わせた題材を選ぶのも任せていますので、悩みながらも楽しんで題材を探しているようです。昨年度からは、絵本をICTで拡大し、それを読み聞かせする先生も見られるようになりました。ICTは大きく映し出された絵を見ながらおはなしを共有できるので、一つの効果的な読み聞かせの形態と思われました。一方で、昔ながらの紙芝居枠を使っただけの読み聞かせも、子どもたちは大好きです。1枚ずつ紙芝居を抜いていく、その場面転換は紙芝居の醍醐味です。場面によって引き抜くスピードを変え、声色を変えて演じられるおはなしの世界に、すっかり引き込まれ身を乗り出して見入っている子どもも大勢いました。



図書委員児童による読み聞かせも、年に2回、1・2年生と特別支援学級で行っています。6月の読み聞かせでは、絵本の文章をすべて別の紙に書き写したりパペットを用意してきたりと、それぞれのグループで相談し工夫を凝らして読み聞かせを行っていました。読み聞かせを楽しんでもらいたいという気持ちから、休み時間にも熱心に練習をしていました。読み聞かせを終えた後、「またよんでほしい。」「すごかった！」などの感想や拍手をもらおうと、照れ笑いを浮かべながらも満足そうな表情を見せていました。

様々な形で行われる読み聞かせは、子どもたちにとって楽しいだけでなく、多くの人々とのかかわりの場でもあります。豊かな心や想像力などを育ていけるよう、子どもたちの心に小さな種を蒔き続ける、そのような読み聞かせのひとつときでありたいと思っています。